

2017年12月30日(土曜日)の下野新聞に 第5回グッドライフアワードの受賞について 紹介されました!

雷鳴抄

2017.12.30

少子高齢化や地球温暖化……。持続可能な社会の実現に向け、解決すべき課題は少なくない。そんな中、全国で進められる地道な取り組みを顕彰しようと、環境省が実施しているのがグッドライフアワードである▼今年、最優秀賞に輝いたのは那須塩原市でパンの缶詰を製造、販売するパン・アキモトの「救缶鳥プロジェクト」だ。受賞が決まった1日は、くしくも創業70周年の日というから二重の喜びだった

▼プロジェクトは、備蓄用に販売したパンの缶詰を賞味期限前に下取りし、食糧難の国や地域に無償で送るという仕組みである。1995年の阪神大震災が

契機となった▼発生直後、秋元義彦社長は2千食のパンを現地に送ったが、大半が傷み廃棄されることに。その経験をもとに開発したのが缶詰パンだった。だが今度は、備蓄用に購入していた客から賞味期限直前に処分を依頼された。「パン職人にとって食わずに捨てられるのは悲しいこと」。さっそくプロジェクトが始動した▼審査では、単なる食糧支援にとどまらず、運送会社などと連携しビジネスモデルを構築したことが評価された。企業の社会貢献活動は、利益なくしては継続できないからだ

▼これまで届けた善意の缶詰は74万食に上る。救缶鳥の羽ばたきは、たとえとり年からいぬ年になっても止まりそうもない。